

枝廣 では、後半続けていこうと思います。皆さん、たくさんのご質問、ありがとうございました。

まず、研究所の方々によいニュースです。これからますますたくさんの、いろいろなモデルなどの研究をしてほしいという要望が読んで取れます！（笑）

いま、いただいた質問を分類し、少なくともお二人の方が、違う観点にしても重なって問いを出された質問をまず取り上げます。お一人しか出ていないものは、時間があれば取り上げますが、お二人以上が取り上げられていたものを最初に、取り上げていきたいと思います。

1問1答をやっていると、おそらく時間がなくなってしまいますので、それぞれどんな質問が出てきているかというのを、主なものを拾って、私のほうで読み上げますので、鎌形さん、研究者の皆さん、そしてオブザーバーの方々も、メモを取っていただいて、自分に向けられているであろう質問、もしくは自分が答えたい質問に対して、それぞれコメントをしていたくという形で進めていこうと思います。

一番たくさん質問が来ているのは、負担についてです。

- ・ 京都議定書の目標 6%削減も、最後は帳尻を合わせるときに、国民の負担となる。それをさらに厳しい目標にしたときに、私たちのコスト負担、あるいは税負担はさらに大きくなり、厳しい生活を強いられるのではないか。
- ・ 失業率、可処分所得、光熱費負担が家庭に対してどのような影響を与えるかの具体的なイメージ、いかに影響が大きいかをもう少し知りたい。
- ・ 次世代の自動車、住宅を本当に 50%以上普及できるのか。そのコストは誰が負担するのか。
- ・ 25%削減となると、家庭での光熱費負担が多額になるのは避けられないのでしょうか。
- ・ 14 万円もの負担はきつい。個人の負担ではなくて、たとえば産業界とか防衛費とか、誰が負担すればいいという選択肢をもう少し出すことはできないか。
- ・ 各選択肢ごとの CO2 削減に要するコスト総額はどれぐらいかかるのか。現時点でそのコストの財源の手当はどうなっているのか。
- ・ 各目標値に対して、われわれの生活がどう変わるのか。もっと具体的にわかりやすく説明してもらいたい。
- ・ 6つの削減モデルにおける国民一人当たりの経済的負担、コストについて知りたい。

これがざっと負担についての質問です。それから少し観点が変わりますが、国際的なことに関して。

- ・各選択肢を選んだ場合の国際交渉における日本の戦略はどのようなものか。
- ・それぞれのレベルの目標を掲げた場合に、世界的に温室効果ガスを削減に向けて、どの程度サポート、または世界をリードできると考えているのか。
- ・他国、特に中国、アメリカは、日本の中期目標の数値によって、どの程度の影響を受けるのでしょうか。

以上が国際的な観点になります。エネルギーについてもいくつかいただいています。

- ・自然エネルギーの開発は世界の先進的な国でどの程度のレベルにあるのか。日本はどのような状態にあるのか。
- ・各選択肢の中で、エネルギー、特に電力の中の再生可能エネルギー、導入目標をどの程度見込んでいるのか。風力、水力などの割合を示してほしい。
- ・エネルギー確保、エネルギー・セキュリティについて、中期目標ではどのようにとらえられているのか。
- ・先ほどの鎌形さんにご説明いただいた対策、政策では、温暖化ほぼイコール省エネ政策の前提のように見られる。そうなった経緯を知りたい。というのは、エネルギー効率の向上だけではなく、再生可能エネルギーの普及、経済的インセンティブの活用も必要だが、その後者2つについては余地が大きいという見方があるのではないか。
- ・モデル計算で、海外は変化なしとの前提だが、温暖化対策を今後も世界が続ける方向ならば、太陽光発電や省エネの需要は相当上がるのではないか。逆にそこを入れない場合のGDPの源泉はどのように考えているのだろうか。
- ・エネルギーの消費を少なくするために、たとえば人口、もしくは産業の発展など、どのような視点を取ることができるのだろうか。

このあたりがエネルギーに関する質問です。政府のリーダーシップについても、いくつかいただいています。

- ・政府の指導力、本気度、予算づけも含め、それがどの程度か知りたい。日本がどういう低炭素社会にしていきたいのか、それをしっかり考えているのだろうか。
- ・プラスからマイナスまで、それぞれのケースを出しているが、日本政府として、環境で世界をリードしていくという考えがないのか。
- ・(これはコメントかもしれませんが)日本はシェアは4%としても、グローバルにリーダーシップを取るという意志を持つべきではないか。

それからビジョンについて。

- ・日本の低炭素型社会のビジョンというのは、どういうものなのか。最終的に日本が目指す低炭素社会がどのような社会なのか。国民の暮らし、仕事など、具体的にイメージできる情報を知りたい。

- ・中期目標策定は、単に CO2 削減目標の数値を決めることにとどまらず、今後の日本の国のあり方を、国民を入れ、策定するものであるべきだ。その点で、新しい産業の創出について、先ほど経済効果は不明という説明があったが、ここを研究してほしい。
- ・CO2 削減のためには、リスクを恐れるより、ポジティブな夢（発明）を期待したい。バックカスティング的なアピールが必要ではないか。
- ・ブータンの GNH のような、GNP、GDP 以外の幸せ度を指標とする将来の目標を出すことはできないか。

これがビジョンにまつわる質問です。それから、少し具体的になりますが、森林、農業に関する質問もあります。

- ・モデル分析に森林保全等の効果は入っているのか。
- ・これまでのお話の中で、たとえば森林吸収源についても考えることが大事だと思う。これまでの限界削減費用の試算において、森林吸収源のことはどの程度含まれているのか。
- ・中期目標を考える上で、農業の組み込み方について、自給率や高齢化等、教えてほしい。

これらが森林、それから農業についてです。それから、モデルに関してという、ちょっと大きなくりをしました。

- ・2050 年 50%削減の根拠と 2020 年目標の関係性、1～6 までを示してほしい。
- ・選択肢 1 を採用したときでも、2050 年に 60～80%削減が可能だとの説明だが、具体的にまったく理解できない。こちらをもう一度説明してほしい。
- ・将来の産業構造と温暖化対策。この場合の温暖化対策の経済効果の定量化は可能なのか。
- ・経済モデルは予測がつかないが、本当にできるのですか。
- ・崩れた経済ではモチベーションが上がり、何か技術などが開発できるのでしょうか。
- ・（これはコメントかもしれませんが）市民として、説明が難しすぎると思います。家族が理解できるか、いまでも心配です。たとえば限界削減費用という言葉だけでも難しいので、もう少しわかりやすく説明していただけますか。それを聞いた上で、日本がこの主張を続ける上でのメリットとデメリットを再確認したいと思います。

以上が、2人以上が出してくださった質問になります。では、この中で、答えたいもの、答えられるもの、自分に向けられているだろうと思うものを、答えていただきたいと思います。大体 6、7 分見当の感じで、もし時間があったら二巡できればと思いますので、とりあえずということで。では、秋元さんからお願いしていいですか。